

令和元年6月18日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05071

研究課題名(和文) 看護学の質的研究論文査読ガイドラインと査読者教育プログラムの開発

研究課題名(英文) How to peer review and publish qualitative papers

研究代表者

萱間 真美 (KAYAMA, Mami)

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：60233988

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,900,000円

研究成果の概要(和文)：質的研究方法は、医療を受ける人や携わる人の経験を当事者の言葉を生かして説明することができる可能性を持つ。統計を用いた量的な研究と比べると経験者が少なく、論文を出版する際に査読ができる査読者や、この方法を理解している編集委員も少ない。よい論文を出版することができるためには、論文の出版に携わる人たちへのガイドラインの提供が必要である。本研究は海外での調査、研修や国内でのセミナー開催を通じてこの課題に取り組んだ。多くの査読委員、編集委員が研修に参加し、知識を共有することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

優れた質的研究論文が発表されることにより、患者や医療関係者の体験の理解が深化することが期待される。論文を誌上(オンラインを含む)発表することは、広く知識を共有することにつながる。看護の基礎教育や卒後教育にも研究成果が反映されることは、看護学の発展につながり、看護ケアの向上にもつながる。

研究成果の概要(英文)：Qualitative Research Method has the potential to describe patient's or staff's substantial experiences. Compare with quantitative method, scholars who can review the qualitative papers are few. Editors and Chief Editors also have limited experiences to review Qualitative papers. So we have tried to make guidelines to publish qualitative papers through seminars, interviews and training abroad. Many of editors and reviewers attended our seminar and could share knowledge.

研究分野：看護学

キーワード：質的研究方法 査読者 編集委員 査読ガイドライン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

質的研究方法を用いた看護学の研究論文は増加しており、結果の共有や統合のために、誌上発表の促進が望まれる。しかし、質的研究論文を査読できる査読者は少なく、査読のポイントや査読コメントの書き方、著者とのコミュニケーションも複雑で長期に渡ることが多い。しかし、わが国には質的研究の査読に関する教育や詳細なガイドラインが存在しない。査読者は、論文を投稿する研究者でもあり、査読者養成は誌上発表される質的研究論文の質の向上に重要な役割を果たすと考えられた。

2. 研究の目的

本研究では、EQUATOR (Enhancing the QUALity and Transparency Of health Research)ネットワーク上にある質的研究方法を用いた研究論文の査読に関連するガイドラインを詳細に検討し、翻訳すること、海外の学術雑誌における質的研究方法を用いた論文の査読ガイドライン、査読者への教育活動の実態をガイドラインの著者や学術誌編集委員長へのヒアリング調査を通じて明らかにする。さらに我が国における質的研究方法を用いた研究論文査読プロセスの実態について、査読を受けた著者および査読にあたった査読者を通じて記述する。さらに～を統合し、質的研究論文の標準査読ガイドラインを作成し、公開する。最終的に、我が国の看護系学会誌や大学紀要等の編集活動に活用できる形で査読ガイドラインと査読者教育プログラム開発までを目的とする。

3. 研究の方法

研究は下記～を実施、～に統合した。

EQUATOR ネットワークの年次総会に出席し、質的研究方法に関する査読に関連するプログラムを調査する。プログラムの企画者・参加者に適宜ヒアリングを行い、ガイドラインが開発された背景についても調査する。編集委員長 (Chief Editor) に研究への参加を依頼し、質的研究論文に関する投稿規定、査読ガイドライン、査読者への教育および査読者に対する著者とのコミュニケーションをどのように教育しているかについて資料の提供とインタビュー調査を行い、質的研究方法を用いた看護学の研究論文に対する査読に関する査読者への説明と教育の実態を明らかにする。

ガイドラインの項目や前年度までの教育プログラム視察をもとに、査読者教育プログラムの内容を検討し、査読コメントの書き方、著者とのコミュニケーションの方法や留意点を具体的に学習できるプログラムを考案する。

作成した査読ガイドラインと査読者教育プログラムの内容を、セミナーを開催して公表する。セミナーは、インタビュー調査に協力を得た海外の研究者や編集委員長を招へいし、事例に基づきながら我が国の査読者教育をどのように整備してきたかを学び、我が国における実施の方法について検討する国際シンポジウムと、国内の各領域の学会誌編集委員長を招いて今後の査読者教育を考えるための国内シンポジウムの2種類とする。国際シンポジウムでは、分担研究者である木下が編集委員を務める、社会学領域の雑誌編集者等も招へいし、近接する学問領域の実態を含めて議論を深める。

セミナー開催は看護系大学院に広報し、各領域の学会、学会誌の編集委員、査読委員、大学教員、院生の出席を呼びかける。セミナー参加者から、同意を得てガイドラインの各項目への意見をアンケート法で収集し、結果を分析する。この結果を反映させて、ガイドラインを修正・検討する。

以上のプロセスを経て作成した査読ガイドライン、査読者養成プログラムを誌上でも公表する。

4. 研究成果

2017年度には英国・ロンドンで行われた、看護系雑誌の編集委員・委員長の組織であるINANE(International Academy of Nursing Editors)の年次総会に出席した。質的研究や論文執筆に関するワークショップ、発表に参加し、英語圏の雑誌編集委員と我が国の現状との共通点、相違点を考察した。Dr.Colleen Doyle をオーストラリアより招聘し、査読の経験、トレーニングの必要性に関するインタビューを行うとともに、大学教職員を対象とした査読セミナーを実施して問題意識の共有を図った。2018年度には、ボストンで開催された International Academy for Nursing Editors(INANE)の年次総会に参加し、創始者である Peggy Chinn 博士と面会した。

博士からは、米国で査読者、編集委員、編集委員長のトレーニングをどのように始めたか、トレーニングプログラムの概要と必要性などをインタビューした。日本における査読、編集委員、編集委員長の活動の実情を伝え、今後のトレーニングにおける米国との連携の重要性について合意した。INANE では、3日間にわたってレベルに応じたワークショップが開催されており、これらにも参加した。特に International Author (英語を母国語としない著者)への対応や、査読コメントについては米国の編集委員から質問があり、研究者としての考え方を伝えることができた。

査読者の養成と査読ガイドラインに焦点をあてて Research in Nursing & Health 誌の編集長である Dr.Judith Gedney Baggs へのインタビューを米国 Oregon Health & Science University において実施した。また、日本国内で看護系雑誌の編集委員長5名に対する質的研究論文の査読に関する困難の経験と、必要な対処に関するインタビューを実施した。それぞれのインタビューデータは逐語録を作成し、質的に分析した。

研究会議を開催してこれらのデータを統合し、次年度以降の追加インタビューの必要性と国内でのセミナー開催について検討した。また、セミナーで提示すべき質的研究論文の査読ガイドラインの項目を検討した。このガイドラインは、萱間（2009）質的研究方法を用いた看護学の学位論文評価基準を査読ガイドラインとして表現を整えたものである。

2017年度には査読者トレーニングのためのセミナーを開催し、グループワークの際に査読者の困難について当事者のナラティブを得た。さらに2018年度には、作成した査読ガイドラインを公表し、今後の課題を明確にするためのセミナーを開催した。セミナーには、社会福祉分野の学会誌でキーワードによる査読者のマッチングシステムを開発したIan Shaw博士と、看護教育の雑誌を創刊し、質的研究方法の独自性と研究目的との適合に注目して査読者教育を実施してきたChris Tanner博士を招聘した。セミナーでは、編集委員長、編集委員の役割にも注目して議論し、常に最新の知識をアップデートしつつ、継続性をもって査読者教育プログラムを発展させることの必要性が議論された。こうしたシステムはわが国には存在せず、看護学領域で査読者や編集委員として活動している人たちが集まったセミナーでは、どのようにしてこうしたシステムを作っていけばよいかについて活発な議論が交わされた。

このセミナーの内容および査読ガイドラインは下記の論文として掲載された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

- 萱間真美, グレック美鈴(2018)質的研究論文のための査読セミナーの背景と査読ガイドラインの提示, 看護研究, 査読無, 51(1), 4-9, 医学書院
- 福島鏡, 青木裕見, 木下康仁, 麻原きよみ, グレック美鈴, 小松浩子, 萱間真美(2018)質的研究論文の査読の現状, 看護研究, 査読無, 51(1), 10-25, 医学書院
- 萱間真美(2018)模擬査読後のグループディスカッションとガイドラインに関する質疑応答, 看護研究, 査読無, 51(1), 26-28, 医学書院
- 萱間真美(2019)研究者, 査読者, 編集委員, 編集委員長のためのセミナー開催の意図 よい質的研究論文を発表するために, 看護研究, 査読無, 52(2), 88-91
- Christine A. Tanner, Ian Shaw, 木下康仁, 萱間真美(2019)セミナーにおける質疑応答, 看護研究, 査読無, 52(2), 120-124

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：木下 康仁

ローマ字氏名：KINOSHITA, Yasuhito

所属研究機関名：聖路加国際大学
部局名：大学院 看護学研究科
職名：特任教授
研究者番号（8桁）：30257159

研究分担者氏名：麻原 きよみ
ローマ字氏名：ASAHARA, Kiyomi
所属研究機関名：聖路加国際大学
部局名：大学院 看護学研究科
職名：教授
研究者番号（8桁）：80240795

研究分担者氏名：グレッグ 美鈴
ローマ字氏名：GREGG, Misuzu
所属研究機関名：神戸市看護大学
部局名：看護学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：60326105

研究分担者氏名：小松 浩子
ローマ字氏名：KOMATSU, Hiroko
所属研究機関名：慶應義塾大学
部局名：看護医療学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：60158300

(2)研究協力者

研究協力者氏名（ローマ字氏名）：青木 裕見（AOKI, Yumi）、高妻 美樹（KOZUMA, Miki）、福島 鏡（FUKUSHIMA, Kagami）、青本 さとみ（AOMOTO, Satomi）、根本 友見（NEMOTO, Tomomi）、石井 歩（ISHII, Ayumi）、松井 芽衣子（MATSUI, Meiko）、瀬戸屋 希（SETOYA, Nozomi）、野中 幸子（NONAKA, Yukiko）、海老原 樹恵（EBIHARA, Mikie）、早坂 弘子（HAYASAKA, Hiroko）、前田 紗奈（MAEDA, Sana）、三河 聡子（MIKAWA, Satoko）、木戸 芳史（KIDO, Yoshifumi）、佐々木 美麗（SASAKI, Mirei）、山田 蒔子（YAMADA, Fukiko）、古賀 郁衣（KOGA, Ikue）、奥 裕美（OKU, Hiromi）、三浦 友理子（MIURA, Yuriko）、松谷 美和子（MATSUTANI, Miwako）

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。